

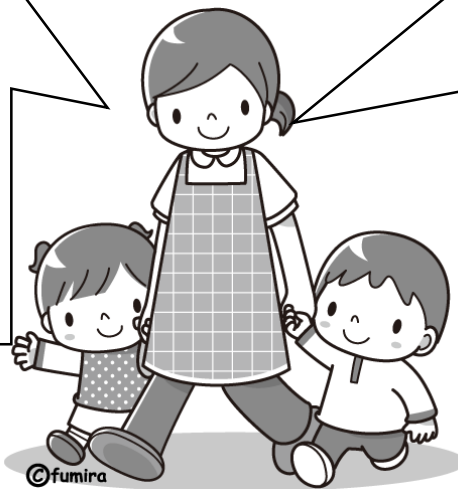
あそびのまなび

秋です。散歩に出かけてみませんか？

頬を撫でる優しい風や耳に入ってくる虫の声は、心を和ませてくれます。また、子どもたちが見つけたねこじゃらし（エノコログサ）は友だちや大人との遊びの架け橋になります。このような経験1つ1つが子どもたちの発達を支えます。

手をつないでみましょう。

手をつないで歩くためには、相手のスピードに合わせなければなりません。他者に合わせることは、対人コミュニケーションの基礎となります。触れ合うことで、子どもたちは安心を感じ、愛着や愛情を育てることにつながります。



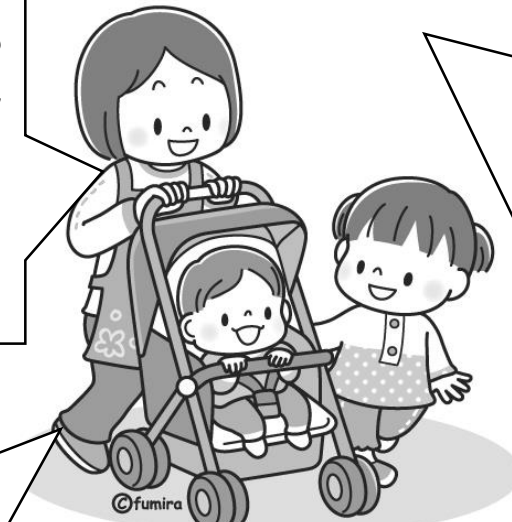
ガタガタ道を

歩いてみましょう。

ガタガタ道を歩くと、地面に合わせて、身体の傾きを調整したりバランスをとったりするなど、私たちが生活する上で必要となる感覚運動面の発達を促すことができます。

自然にふれてみましょう。

頬に心地よい風を感じたり、時には強い風を感じたりすることもあります。また、太陽の光や雨が当たることもあるかもしれません。1つ1つがすべて身体に刺激として入り、子どもたちの発達を促すことにつながります。



お話をしましょう。

歩きながら見つけた物のお話をするのも、子どもたちにとっては、知っている言葉を増やしていくことにつながります。時にはであった方と挨拶をすることがあるかもしれません。何気ないかわりの中で、社会性を育てることにつながります。また、年齢が低くても語り掛けていくことは、耳に刺激として入り、言葉を育てる基礎作りになります。

興味関心に合わせてみましょう。

目的地に到着するまでの道のりは、子どもたちにとって新しい発見の連続、時には子どもたちが見つけた物を一緒に見たり、気づいた場所に一緒に行ったりなど付き合ってみましょう。興味関心の広がり、豊かな経験を作る第1歩につながります。